

## IV「上町・森ノ宮・玉造地区」今昔

### 1. 「上町・森ノ宮・玉造地区」について

#### ○「上町」について

- ・上町台地からくる地名であるが、一般的には船場などの下町に対比して使われている。しかし、ここでは、谷町筋より東側の上町筋を中心とした地域を指すこととしたい。

#### ○「森ノ宮」の名の由来と町の移り変わり

- ・地名は、もと大坂城あたりに鎮座していた生國魂神社の東側に森が広がっていたが、598年に新羅より持ち帰ったカササギをこの森で飼育したことから鶺鴒森(カササギノリ)と呼ばれるようになったことおよび同じ頃、聖徳太子が用明天皇を祀る鶺鴒森宮を当地に造営し、この神社の通称である”森之宮”が、その由来となっている。
- ・縄文時代中期から近世にかけての長期にわたる複合遺跡である「森の宮遺跡」が発掘されていることから、森之宮地域には縄文時代から人が居住していたと考えられる。
- ・江戸時代に入ると、大坂城代配下の玉造口定番の屋敷地が広がっていた。
- ・明治時代になり、現在の大阪城公園の場所に大阪砲兵工廠が、法円坂住宅の場所に大阪陸軍被服支廠が設置されて、この付近は砲兵工廠や被服支廠に勤める人たちで発展したが、その後、昭和15年(1940)年には大阪砲兵工廠の拡張用地として転用されていった。
- ・第二次世界大戦期には、米軍から数回にわたる爆撃を受けて、町は甚大な被害が出たが、大阪砲兵工廠跡は順次整備され、当該地域の西側地区はオフィスや公共施設が、東側地区にはオフィスのほかに団地やマンションが多く建てられている。なお、環状線東側の砲兵工廠跡(城東区)には、1960年代に建設された日本住宅公団・森之宮団地が広がっている。

#### ○「玉造」の名の由来と町の移り変わり

- ・地名の由来は、古墳時代に勾玉(マガタマ)などを製作する玉作部(玉造部)がこの地に置かれていたことによるとされている。(玉造稻荷神社の前に「玉造岡」の碑がある。)
- ・昔から交通の要所であり、大坂から東へ向かう古道(街道)のいくつかがここを経由し、奈良、八尾、信貴山方面へつながっており、お伊勢参りの人々でも賑わった。
- ・石山合戦では主戦場の一つとなり、豊臣秀吉による大坂城築城に際して、当初は町人地であったが、三の丸造営によって町家が郭外に移転され、細川・宇喜多・蜂須賀・前田・龍造寺・浅野・片桐などの屋敷が置かれた。  
しかし、大坂の陣によって全て灰燼に帰し、江戸時代には武家地・町人地・年貢地が混在する地域となって、北半に玉造口定番の武家屋敷地、南側は伏見城下からの移住者を中心に形成された町人地となった。
- ・維新後の明治6年(1873)にはいったん大阪市街から切離されて東成郡西玉造村となったが、明治30年(1897)に再び大阪市東区に編入され、明治33年に北国分町、八尾町、元伊勢町、越中町、紀伊国町、左官町、半入町、玉堀町、東阪町、岡山町、玉造町、仁右衛門町、東雲町1-3丁目、宮林町、南玉造町、唐居町、黒門町、川西町の20町となったあと、昭和54年に現行の住居表示となった。
- ・職住混在地域で、上町台地における文教地区の一画を占めている。明治時代以降、川口と並んでキリスト教の布教拠点となった地で、ミッションスクールが多い。

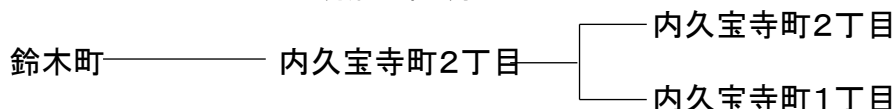
#### ○「玉造筋」について

- ・大阪市内を南北に走る大阪市道恵美須城東線の一部(京橋駅南から新今宮駅付近の間)で、京橋駅付近から南はJR大阪環状線の内側を併走しており、特に環状線の大阪城公園駅～森ノ宮駅の区間は大阪城公園の東縁を通る。
- ・昭和19年(1944)6月、森ノ宮駅前から玉造駅間に市電が開通(昭和39年10月廃止)し、既に大正10年(1921)7月に開業していた玉造から阿倍野間の路線と結ばれた。  
昭和36年11月に市電は廃止されたが、玉造から阿倍野間は昭和45年6月までトロリーバスが運行された。
- ・平成8年12月には地下鉄・長堀鶴見緑地線が京橋駅から心斎橋駅まで延長され、森ノ宮駅～玉造駅間は玉造筋の地下を通った。地下鉄・長堀鶴見緑地線は平成2年(花博開催)に鶴見緑地～京橋駅間が先行開通し、平成9年8月に門真南～大正駅間が全線開通した。

## 2. 「上町・森ノ宮・玉造地区」の町々

### ○「内久宝寺町2・1丁目」

明治5年3月



\*鈴木町は、江戸時代に鈴木町代官所と代官屋敷があり、代官・鈴木三郎九郎の名に因む

#### 「市立銅座幼稚園」 内久宝寺町1丁目1-4

- ・昭和2年(1927)、龍造寺町他6ヶ町共有の財産区会において、南大江小学校通学区域内に幼稚園を設立することが決議され、内久宝寺町2丁目宅地180余坪を買収して建設費とともに大阪市に寄付された。
- ・昭和3年11月、大阪市によって園舎が竣工し、12月に大阪市立銅座幼稚園が開園した。(開園時の園長は南大江尋常高等小学校長が兼任した。)
- ・園名の由来は、敷地がその昔大坂城内六の丸にあった銅座屋敷の跡と称せられていたことによっている。
- ・昭和23年(1948)4月には、前々年に分園として開園していた玉造幼稚園が独立し、さらに11月に新たに分園として開園した中大江幼稚園が、翌24年4月に独立した。
- ・昭和40年(1965)8月に新園舎が完成して移転し、現在に至っている。
- ・3~5歳児を対象に、5学級・160人を定員としている。

#### 「銅座公園」(5117㎡) 内久宝寺町2丁目5(銅座幼稚園の北側)

- ・昭和45年3月開園の児童公園。遊具スペースと広場スペースがあり、緑も多く桜がきれい。

#### 「ディーグランセ上町台ハイレジデンス」 内久宝寺町2丁目1-8

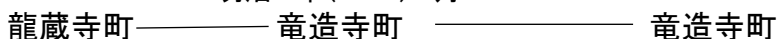
- ・平成21年3月竣工の地上28階・地下1階建て分譲高層タワーマンション(総101戸)

#### 「グランアッシュ谷町サウスヒルズ」 内久宝寺町2丁目6-10

- ・平成26年10月竣工の15階建て分譲タワーマンションで、総戸数は69戸。

### ○「竜造寺町(ヲウ)」 伏見町人の移住した町 住宅地域

明治5年(1872)3月



\*町名は、豊臣時代に龍造寺政家の屋敷があったことに因む

#### 「寶泉寺」 竜造寺町7-19

- ・聖徳太子の乳母が四天王寺の南に庵を建立。その後”大坂の陣”で焼失したが、寛文8年(1668)、覚如比丘尼がこの地に再興したと伝えられる。天台宗四天王寺派の尼寺で、本尊の聖観音は聖徳太子の作という。
- ・文久3(1863)年の”新町焼”で類焼した後、明治18年(1885)に現在の堂宇が再建されたとされる。境内は371坪の広さをもつ。

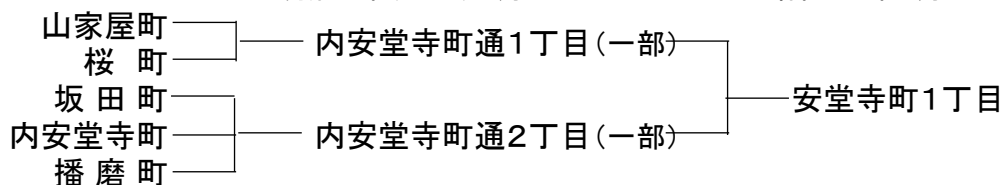
#### 「あゆみ東保育園」 竜造寺町1-7

- ・平成28年5月に開設された私立の認可保育所で、0~5才児・80名を定員としている。

### ○「安堂寺町1丁目」

明治5年(1872)3月

昭和57年2月1日



- ・江戸時代の安堂寺橋通りは、玉造から生駒の暗峠に達する奈良街道に通じる重要な道筋。

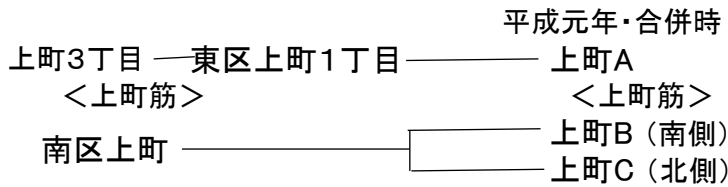
#### 「キャピトル安堂寺」 安堂寺町1丁目3-5

- ・平成20年3月竣工の15階建て賃貸タワーマンションで、総戸数は56戸。

その他、谷町筋側には低層マンションが多い。

○「上町A・B・C」

住宅地域



② 上町筋をはさんで、東側は「東区上町1丁目」で、西側が「南区上町」であった。東区と南区が合併して中央区になる時、行政側は旧「南区上町」を「上町2丁目」とする提案を行ったが、住民が納得せず、旧「東区上町1丁目」側を「上町A」、旧「南区上町」側を「上町B」と「上町C」という珍しい表示となった。

「大阪府婦人会館」 上町A-10

- ・昭和7年、戦地に送られる兵士達や、入隊のために帰郷する兵士達を天保山棧橋で見送り、世話をする婦人たちが「大阪国防婦人会」が結成され、昭和12年3月に会員の寄金で「国防婦人会館」が建設された。戦後、米軍が接收していたが、昭和38年4月に大阪府が所管し「大阪府婦人会館」として開設された。
- ・平成6年、大手前1丁目に「ドーンセンター」が出来てその役割を終え、その後、「大阪府警察本部上町別館」とされていたが、平成25年にNTT都市開発が買い取り、現在はマンション(下記)になっている。(大槻能楽堂の南隣)

「ウェリス難波宮上町」

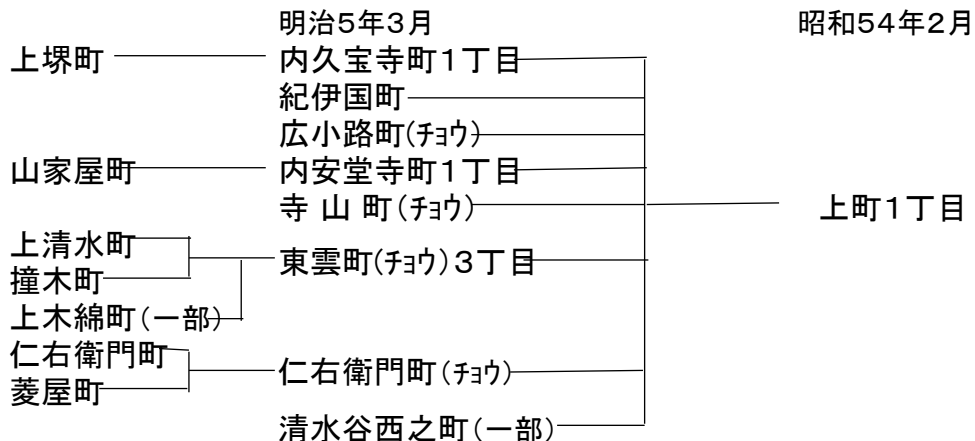
- ・もと大阪府警察本部上町別館の跡地に平成28年2月竣工した15階建てマンション(56戸)。

「大槻能楽堂」 上町A-7

- ・昭和10年(1935)9月、現在地に能楽堂を開設。昭和55年に旧・能楽堂を解体し、同58年(1983)、新しい能楽堂の披露を行った。能舞台の残響時間が約1秒に設定されている。

○「上町1丁目」

住宅・商業地域



\*上堺町(鈴木町の東)は、秀吉の大坂城築城の際に堺より移住した町人が開発した町  
 広小路町は、もと大坂城の屋敷町で、明治6年11月に新たに設定された町名。  
 寺山町は、もと大坂城の城代屋敷で、明治5年以降、新たに設定された町名。

「市立東商業高等学校」

- ・広小路町に大正9年3月、東区甲種商業学校として発足し、翌年6月に「市立東商業学校」となった。
- ・大阪大空襲で被害を受け、昭和23年に南久太郎町1丁目の浪華小学校跡に移転し、「浪華女子商業学校」と合併して男女共学の「市立東商業高等学校」となった。
- その跡に、「大阪市立聾学校(大阪市立聾唖学校)」が移転してきた。

「大阪府立中央聴覚支援学校」(もと「市立聾学校」) 上町1丁目19-31

「大阪市立聾学校」 (東商業高等学校跡)

- ・明治33年(1900)に、実業家の五代五兵衛(風眼のため失明)が私費で設立した私立盲唖院(本町4丁目)が源流で、明治40年7月に大阪市に移管され「大阪市立盲唖学校」となった。

- ・その後、生徒数が増加したため数回移転し、大正12年には盲学校と聾啞学校が分離されたため、「大阪市立聾啞学校」(当校)と「大阪市立盲学校」(現・大阪府立大阪北視覚支援学校＝東淀川区)に分かれ、大阪市立聾啞学校は東成郡生野村の新たな校舎に移った。
- ・昭和23年4月、盲聾教育の義務制化に伴って、ここ東商業高等学校跡に移り、名称も「大阪市立聾学校」に改められた。当時の生徒数は、幼稚部3名・小学部103名・中学部18名・高等部4名の計128名であった。また、同年10月には三重苦のヘレンケラー女史が来校している。
- ・その後、平成21年に「大阪市立聴覚特別支援学校」と改称され、平成28年4月には、大阪市立の全特別支援学校が大阪府へ移管されて「大阪府立中央聴覚支援学校」と改称された。

「朱雀門跡」

なお、校庭からは、前期難波宮の南門である朱雀門の跡が見つかっている。

「広小路公園」(4304㎡) 上町1丁目19(府立中央聴覚支援学校の北側)

- ・昭和29年3月開園の児童公園。東側に遊具、西側には”どんぐり広場”がある。

「府営上町住宅」(もと大阪府営寺山住宅) 上町1丁目15

- ・戦後間もない住宅問題を解消するため、昭和24～26年にかけて、「大阪府営寺山住宅」として5階建住宅12棟(総戸数288戸)の団地が建設された。
- ・老朽化による建て替えが行われ、「府営上町住宅」として、平成19年に14階建て139戸の1号棟が、平成25年に14階建て2号棟が竣工している。

「寺山公園」(2091㎡) 上町1丁目2(府営上町住宅の東側)

- ・昭和31年10月開園の児童公園で桜のきれいな公園。

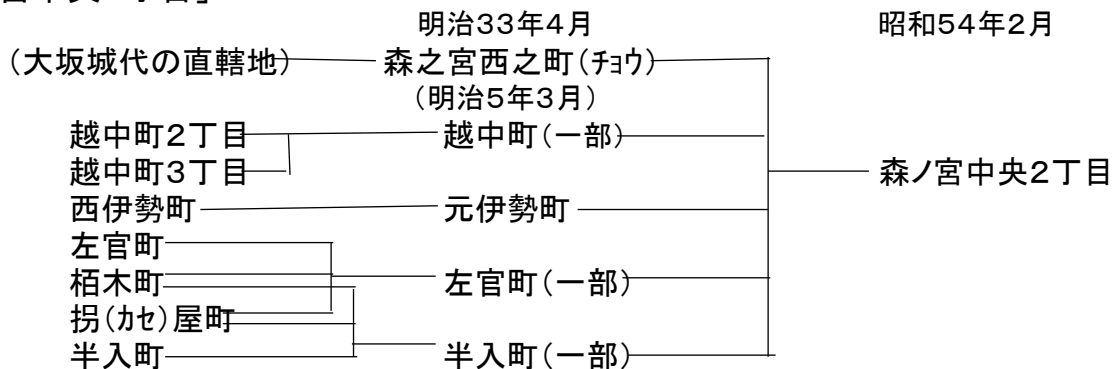
「慶生会 上町みどり東保育園」 上町1丁目20-6

- ・平成26年2月に開設された私立の認可保育所で、0～5才児・90名を定員としている。

「グラン・ブルー上町台」 上町1丁目16-27

- ・平成27年1月竣工の19階建て分譲・賃貸タワーマンションで、総戸数は70戸。

## ○「森ノ宮中央2丁目」



\*森之宮西之町の地は、玉造口与力・同心の組屋敷が並び、大坂城代の直轄地であった。

「越中井」 森の宮中央2丁目12

- ・この付近は、細川越中守忠興(タオキ)の邸跡で、越中井はその邸内にあったものといわれている

・慶長5年(1600)、関ヶ原戦の直前、忠興が家康に従って上杉攻めに出陣中、石田三成は在坂諸大名の妻子を人質にしようとしたが、明智光秀の娘で忠興夫人であった玉子(洗礼名:ガラシャ)はこれに従わず、キリシタンで自殺が禁じられていたため、家臣に胸を突かせて37歳の生涯を閉じた。傍の石碑には、辞世の歌として”散りぬべき時知りてこそ世の中の 花は花なれ 人も人なれ”と刻まれている。

近くの玉造カトリック教会には、ガラシャ夫人像とキリシタン大名の高山右近像がある。

「日生球場」(現・「もりのみやキューズモールBASE」) 森ノ宮中央2丁目1-70

- ・日本生命は、当時の大阪には市民に開放された野球場が少なかったこともあり、スポーツを通じて地域社会に貢献することを目的として、昭和25年(1950)6月、「日本生命球場(通称:日生球場)を建設した。内野スタンド1万4千人・外野芝生席9千人、計2万3千人が収容できた。

その年には、7月1日の毎日オリオンズ対南海ホークス戦を皮切りにプロ野球公式戦が21試合行われたが、大半はアマチュア野球やレクリエーション利用に供され、昭和30年以降は関西六大学リーグや近畿大学野球リーグのメイン球場とされた。

・その後、当時のプロ野球・近鉄パールスの主球場である藤井寺球場にナイター設備がなかったことから、都心の日生球場に照明設備を設けてナイターの試合を行いたい旨の要請があり、昭和38年に改修工事が完成して近鉄球団のフランチャイズ球場となった。

ただし、収容人員の関係でオールスターゲームや日本シリーズが開催できないことから、昭和59・60年の広島東洋カープとの日本シリーズは大阪球場を間借りするといったこともあった。その後、藤井寺球場にナイター設備が完成したことや球場の老朽化もあって、平成8年5月の近鉄対ダイエー戦(ナイター)がプロ野球公式戦の最後の試合とされ、アマチュア野球リーグも平成9年11月開催の第7回全日本アマチュア野球王座決定戦で、地元の近大が三菱重工神戸を5-4で破って優勝した試合が、本球場最後の公式戦となった。

・「東の神宮、西の日生」又は「関西アマチュア野球のメッカ」と呼ばれる存在であった球場も平成9年(1997)12月末で閉鎖され、その跡地はしばらくの間、マンションのモデルルームや時間制パーキングが設けられていたが、日本生命と東急不動産が、「球場の記憶を継承し、地域に愛され、ともに発展していく商業施設」として再開発することに合意し、平成27年4月に「もりのみやキューズモールBASE」が建設されてオープンした。

「もりのみやキューズモールBASE」 森ノ宮中央2丁目1-70

・もと日生球場跡地に、東急不動産が平成27年4月開業した大型ショッピングセンター。スポーツクラブ、カルチャーセンター、ペットショップや内科・眼科なども併設されている。

「セントラルスクエア森ノ宮店」 同上の南隣(森ノ宮中央2丁目1-30)

・平成27年4月に開業したスーパー「ライフ」のブランド店。2階に家電量販店の「エディオンもりのみや店」が入っている。

「府立青少年会館」(現・「ファインシティ大阪城公園」)

「府立青少年会館(厚生会館)」 森ノ宮中央2丁目13-33(もと森之宮西之町)

・昭和35年12月、大阪府は地上5階・地下1階の「厚生会館」を建設し、翌36年4月に開館した。この会館は、民生委員連盟、大阪社会福祉協議会などが入室する社会福祉事業団体の連絡調整の場とされた。

さらに、昭和38年には拡張工事で文化ホールが建設され、青少年の文化教養の場として利用されるようになって、昭和44年4月に「大阪府立青少年会館」と改称された。

・しかし、橋下大阪府知事が掲げる「大阪維新プログラム」の一環で、平成21年(2009)6月に廃止され、その跡地には15階建のマンションが建設された。

「ファインシティ大阪城公園」 森ノ宮中央2丁目13-35

・府立青少年会館の跡地に建設された15階建3棟・計493戸の大型分譲マンションで、平成25年(2013)2月に竣工し、4月頃から入居が始まった。

「大阪製缶(株)・本社工場」

昭和28年9月創業の大阪製缶(株)は、同年、この地(当時は東成区)に本社工場を設けたが、昭和38年に東大阪市に本社および本社工場を新設し移転した。

「蓮美幼稚学園もりのみやナーサリー」 森ノ宮中央2丁目8-15

・平成25年4月に開設された私立の認可保育所で、0~5才児・80名を定員としている。

「メイツラン大阪城公園」 森ノ宮中央2丁目6-1

・平成27年3月竣工の15階建て分譲・賃貸タワーマンションで、総戸数は113戸。

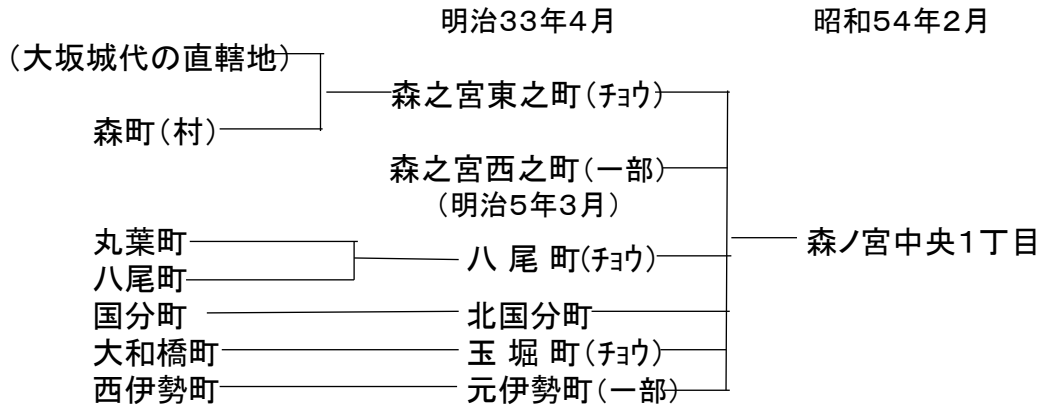
「プレサンス大阪城公園ネクサス」 森ノ宮中央2丁目6-18

・平成27年2月竣工の15階建て分譲・賃貸タワーマンションで、総戸数は146戸。

「森之宮屋内プール」 森ノ宮中央2丁目1-48

・昭和53年5月に市民プールとしてオープンしたが、平成22年3月末で閉鎖された。

○「森ノ宮中央1丁目」



\*森之宮東之町の地は、玉造口与力・同心の組屋敷が並び、大坂城代の直轄地であった。

「森之宮遺跡」(森の宮貝塚)

・昭和46年、市立労働会館の新築工事において、大阪では数少ない貝塚が見つかった。この辺りは上町台地の東北端に位置しており、貝塚の下層部(縄文期)に海水産のマガキ、上層部(弥生期)からは淡水産のセタシジミの貝殻が多数見つかったことから、かつては海(河内湾)に面していたが、淀川や大和川からの土砂で埋め立てられて湖(河内潟から河内湖)になり、さらに大阪平野へと変貌してきた過程が明らかになった。また、縄文期(約6千年前)の地層から屈葬人骨18体と生活用具が発見され、その埋葬形態などから関東や東北、九州西北地方と交流していた痕跡が見られることから、森ノ宮境界が日本各地を移動する縄文人の集散地となっていたことが推定されている。

・現在、この遺跡と埋蔵品の一部は「森ノ宮ピロティホール」地下に保存されている。

「森之宮神社」(鵠森[カサギノモリ]神社)

・蘇我氏と物部氏が争った際、蘇我側の聖徳太子が四天王に祈願して勝利したため、崇峻2年(589)に当地に四天王を祀る寺を建立したのが、縁起とされている。なお、寺はその後、天王寺に移され「四天王寺」となっている。

また、『日本書紀』に「推古6年(598)に鉄鋼業の祖・吉士磐金(キシノワカネ)が新羅より鵠(かさぎ)2羽を献上して”難波の杜(モリ)”で飼育した。」とあり、この難波の杜が当神社の森とされることから「鵠の森」と呼ばれるようになって、これが社名の由来と言われている。

・主祭神は、聖徳太子とその父・用明天皇、母の穴穂部間人皇后(アナホノハシヒトヒメミコ)で、奥社に天照大神、月読命、素盞鳴命(スサノミコ)を祀っている。



「大阪市立労働会館」(現「大阪市こども相談センター」) 森ノ宮中央1丁目17-5

・大阪市が働く人々の生産意欲の向上と明るい労使関係の推進を図るため、昭和26年(1951)5月、森之宮東之町にあった旧・森之宮小学校を改装して開館した。

・昭和48年5月に新館がオープンしている。

・労働者大学・職業訓練・教養講座や青年労働者向けの結婚紹介・結婚式場の提供などが行われたが、昭和54年(1979)に「アピオ大阪」と改称され、平成20年3月末に閉館した。

・現在は、平成22年に大阪市中心児童相談所(平野区)と教育センターの教育相談部門が統合された「大阪市こども相談センター」が設けられている。

大阪市立の全中学校を配置校として、生徒や保護者への教育相談を行うスクールカウンセラー事業、不登校など課題を抱える児童・生徒を対象としたカウンセリング活動や児童虐待メール相談などを担当している。

「森之宮公園」(2378㎡) 森ノ宮中央1丁目13(大阪市こども相談センターの東側)

・昭和31年5月開園の児童公園。園内に「森之宮尋常高等小学校跡」碑がある。

「森ノ宮ピロティホール」 森ノ宮中央1丁目17-5

・昭和54年(1979)9月、大阪市立労働会館に併設する形で「森ノ宮ピロティホール」が開館した。客席数1030席の芸術ホールでコンサート、オーケストラ、演劇などに利用されている。  
 ・大阪市の財政改革の一環として、平成20年3月末に一旦閉館されたが、一般競争入札により、キョードー大阪と定期建物賃貸借契約を結び、平成22年4月に改装・再オープンした。  
 ・なお、地下の一角には、この付近で見つかった「森之宮遺跡」からの埋蔵品等を保存・展示するスペースが設けられている。(毎年、春と秋に特別公開されている)

「大阪中央労働基準監督署」 森ノ宮中央1丁目15-10(もと森之宮東之町)

・昭和22年9月、大阪労働基準局の下部機関である「大阪城東労働基準監督署」として設置された。その後、改称され、中央区・東成区・城東区・天王寺区・浪速区などを管轄している。

「大阪産業安全技術館」

・産業安全に関する資料館として昭和36年に開設(当初は「大阪産業安全博物館」)され、一般公開されていたが、政府による事業仕分けの結果、平成23年3月を以て閉館した。

「大阪労働金庫」 (もと北国分町)

・大阪労働金庫は、昭和27年12月に設立されたが、平成10年に近畿地区の7つの労金が統合されて「近畿労働金庫」となり、平成20年に「ろうきん肥後橋ビル」(西区江戸堀)が新築されて移転した。

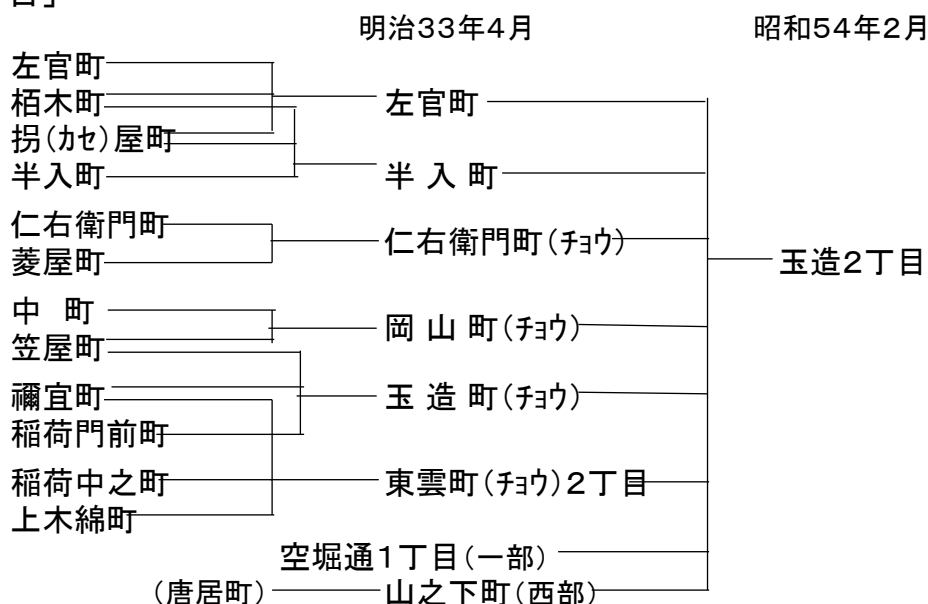
「サクラクレパス本社ビル」 森ノ宮中央1丁目6-20

・大正10年5月、「日本クレイヨン商会」として創業され、大正14年に世界初のオイルパステル『クレパス』を発明して、「クレパス本舗桜商会」と改称し、さらに昭和45年に現在の社名に改称した。現在は、色鉛筆、油絵具やシャープペンシル等も製造販売している。  
 ・平成3年に現在の本社新社屋が完成し、ビル内には描画材料の資料やクレパス画コレクション等を展示する「サクラアートミュージアム」が設けられている。

「城南公園」(5547㎡) 森ノ宮中央1丁目20

・昭和41年5月開園の児童公園。入口に「北国分町旧跡」の石碑が建つ。

## ○「玉造2丁目」



\*旧名の「半入町」は、豊臣秀頼の側室・お愛の実父・青木半入の居宅があったことによる。

「玉造稻荷神社」

玉造2丁目3(もと半入町)

- ・社伝によれば、垂仁天皇18年(紀元前12年)の創建。古代においては「玉作岡」と呼ばれ、勾玉(マガタマ)などを作る玉造部がいた。また、蘇我・物部の争いの際には聖徳太子が当地に布陣して、戦勝後に観音堂を建立したとされる。
- ・豊臣時代には千利休が茶会を催したという伝承もあり、神社の南西、玉造禰宜(ネギ)町に屋敷を構えていたとされる千利休を顕彰して、境内に「千利休居士顕彰碑」がある。門前に幾たびかの戦火を逃れて、秀頼奉納の鳥居があったが、阪神・淡路大地震の影響で倒壊したため、新しい鳥居が建てられ、元の鳥居の上半分が境内に保存されている。
- ・大坂城の鎮守として熱く信奉され、江戸時代には伊勢参りの出発点とされた。
- ・また、漫才作家の秋田實(1905~1977)は玉造出身であり、ミヤコ蝶々・南都雄二、夢路いとし・喜味こいし、秋田アスケ・Bスケをはじめ、オール阪神・巨人、宮川大助・花子など多数の漫才師を育てて、漫才ブームの礎を作り、8千本近い漫才台本を書いて「上方漫才の父」と呼ばれた。幼い頃に遊んだというこの玉造稻荷境内に「笑魂碑」があり、自筆で「笑いを大切に。怒ってよくなるものは猫の背中曲線の曲線だけ」と刻まれている。



「榎木大明神」

玉造2丁目

- ・玉造稻荷神社正門の南側、道の真中に「白光大神(シラミツオカミ)」と名付けられた榎の大木が祀られている。白光とは「白蛇」を指し、神社から榎の種が飛んできて育ち白蛇が棲みついたとされる。地元では、「えのきさん」と呼んで、親しまれている。

「越中公園」(6765㎡)

玉造2丁目24(越中井の南側)

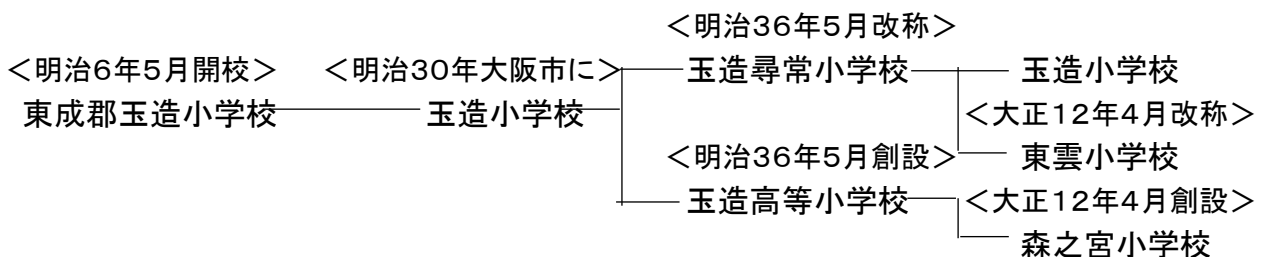
- ・昭和29年3月開園の桜がきれいな児童公園。「越中井」の南西部に位置し、公園西側道路沿いに、「青刻(アオキザミ) 昆布発祥の地」が建っている。

「青刻昆布発祥の地」

- ・碑には、「昆布加工品の原点である青刻昆布の主産地・大阪における創始は享保6年(1721)頃と伝えられる。文化年間に清国(中国)に試売し、1810年頃から販路を拡張、専ら、大阪上町台地において製造していた。明治33年(1900)には、大阪の刻昆布が国の重要物産品に指定されている。今日、大阪の昆布加工品はなにわ名物として広く認められ、大阪の食文化に大きく寄与しており平成10年(1998)には大阪特産物品として国により認証された。大阪昆布商工業会(起源は明治34年認可の大阪刻昆布製造同業組合)は、平成13年に百周年を迎えたのを記念してこの碑を建立する。平成13年3月建立」と記されている。

「市立玉造小学校」

玉造2丁目3-43(もと半入町)



- ・明治6年(1873)5月、半入町(現・玉造2丁目)の現在地に東大組第1区小学校として開校し、同12年2月に「東成郡玉造小学校」と改称された。



- ・大阪市に編入されて市街化が進み、人口の増加に伴って、大正12年(1923)4月には校下に「森之宮尋常高等小学校」と「東雲尋常小学校」(分校が独立)が開校した。
- ・しかし、終戦前後には常住人口も減少し、東雲小学校は昭和19年(1944)3月に廃校となり、森之宮小学校も昭和20年6月の空襲で半焼し校区が焼きつくされたため、翌21年4月に再併合されて、「玉造小学校」が当地区唯一の小学校となった。
- ・なお、森之宮小学校の跡地には、昭和26年5月に「大阪市立労働会館」が開館しており、労働会館の東裏手に「森之宮尋常高等小学校・高等小学校跡」碑が建てられている。

「**市立玉造幼稚園**」 玉造1丁目9-10(もと半入町)

- ・昭和14年頃より玉造地区に幼稚園の設立要望が出た時、地元有志から経費一切の寄附申出があり、昭和15年(1940)6月、大阪市によって玉造小学校敷地内に開園した。
- ・昭和30年5月、もと東雲小学校校舎に移転したのち、昭和54年6月、現在地に新園舎が完成し移転した。言語障害児の養護教室も備えている。
- ・初年度は、108人・3組編成でスタートしたが、現在は3~5才児を対象に4学級・125人を定員としている。天王寺区・東成区からの通園児も多い。

「**カトリック玉造教会(聖マリア大聖堂)**」

- ・明治2年、川口居留区に礼拝所が設けられ、明治12年に川口教会が建てられて布教が始まった。
- ・明治23年、この地に移ってカトリック教の病院を建て、同26年に玉造教会が完成したが、戦災で焼失し、現在の大聖堂は、昭和38年(1963)に落成した。



- ・敷地が細川家の屋敷跡という由縁から、聖堂内に細川ガラシャを描いた画が掲げられている。「最後の日のガラシャ夫人」・「栄光の聖母マリア」・「高山右近」といった画は日本画家・堂本印象(1891~1975)の作品で、印象はこの功績により昭和38年(1963)、ローマ教皇ヨハネ23世から”聖シルベストロ文化第一勲章”を授与されている。また、パイプ数2400の巨大なパイプオルガンでも知られている。
- ・教会前の左右に、ガラシャ夫人の石像とキリシタン大名・高山右近の石像が並んでいる。また、教会前の広場には、カトリックに入信した俳人・阿波野青畝の句碑があり、高山右近を詠んだ、”天の虹 仰ぎて右近 ここにあり”の句が刻まれている。

「**城星学園**」(幼稚園・小学校・中学校・高等学校) 玉造2丁目23-38

- ・昭和25年(1950)、玉造カトリック教会の附属幼稚園として城星学園を経営したのが最初で、その後、昭和28年に小学校、昭和34年に中学校、昭和37年に高等学校を設置して、女子の一貫教育の徹底を期している。
- ・なお、学園の経営主体は、明治5年(1872)に創設されたカトリックの扶助者聖母修道会である。

「**大阪女学院**」(中学校・高等学校・短期大学・大学・大学院) 玉造2丁目26-54

- ・明治17年(1884)1月、アメリカ人宣教師によって川口町外人居留地に設立された「ウイリミナ女学校」がはじまりで、明治37年に仁右衛門町(現・玉造2丁目)にあった「浪華女学校」と合併して現在地に移ってきた。
- ・明治45年に高等女学校となり、昭和16年(1941)に「大阪女学院」と改称された。
- ・戦災で全校舎が焼失したが、アメリカ長老教会の援助もあって復興し校地も拡張された。
- ・昭和22年に新学制による中学校となり、同23年には高等学校(普通科と英語科)を、同43年に短期大学(英語科)を設立して現在に至っている。

「**大阪美容専門学校**」 玉造2丁目28-27(もと東雲町2丁目)

- ・大正4年(1915)10月、美容界の教育者・山上クニが東雲町2丁目に「大阪美髪女学校」を創設し、大正11年4月に美容師養成の職業学校として認可を得た。

- ・大空襲の被害を受けたが、校舎を復旧し、昭和25年1月に「大阪美容専門学校」と改称し、昭和53年4月には専修学校として認可を受けた。
- ・通信課程コースがあり、女子学生寮も備えている。

「大阪玉造第二郵便局」 玉造2丁目25-15

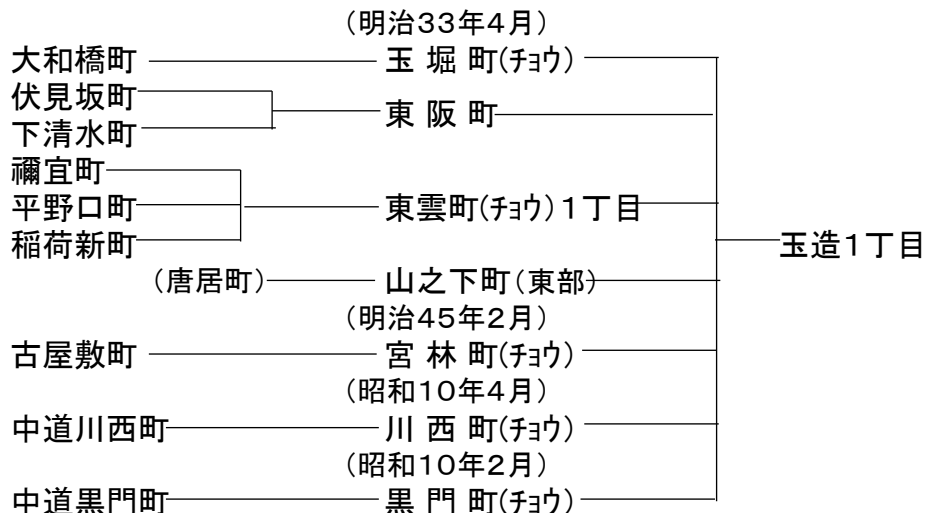
「玉造公園」(5247㎡) 玉造2丁目20(大阪女学院の東側)  
 ・昭和35年5月開園の児童公園で、樹木が多く緑深い公園。

「蓮美幼稚学園たまつくりナーサリー」 玉造2丁目8-15  
 ・平成25年4月に開設された私立の認可保育所で、0~2才児・25名を定員としている。

「ライオンズタワー大阪三の丸森ノ宮レジデンス」 玉造2丁目1-11  
 ・平成20年11月竣工の地上20階建、賃貸高層タワーマンションで、総戸数は61戸。

## 「玉造1丁目」

昭和54年2月



\*黒門町は、豊臣期大坂城の玉造門があった地で、門が黒く塗られていたことに由来する。

「市立玉造幼稚園」 玉造1丁目9-10  
 (玉造2丁目の項を参照)

「玉造地域集会所(玉造老人憩の家)」 玉造1丁目11-13(蓮久寺の東向)  
 ・昭和55年7月に設置された鉄筋2階建ての市立のコミュニティ施設。

「京セラドキュメントソリューションズ(株)」(もと「三田工業」) 玉造1丁目2-28  
 ・昭和9年(1934)に「三田工業」として創業し、「コピーは三田」として一世を風靡したが、円高の時に生産拠点を海外に移したところ円安で裏目となり、平成10年8月に会社更生法の適用を申請して事実上倒産、京セラの支援を得て平成12年1月に「京セラミタ(株)」となった。  
 ・その後、京セラ本体のプリンター事業を統合し、平成24年4月に社名を「京セラドキュメントソリューションズ(株)」と改めて現在に至っている。プリンター、複合機、ソフトウェア、その他パソコン用周辺機器等の製造販売と付随する各種サービスを行う。  
 ・平成20年3月には敷地内に「京セラR&Dセンター」(地上20階)が竣工している。

「森下仁丹(株)」 玉造1丁目2-40

- ・明治26年に森下博が薬種商「森下南陽堂」を創業したのが発祥で、明治38年(1905)には口中清涼剤「仁丹」の販売を開始し、昭和11年11月に「森下仁丹(株)」と改称した。
- ・平成19年3月、老朽化による生産効率低下に伴って本社工場・研究施設の土地建物を大和ハウス工業に売却し、翌20年12月、南側に新本社を移転して現在に至っている。
- ・仁丹の登録商標(右図)については、軍人がモデルと間違えられ易いが、大礼服姿の外交官を図案化し、「薬の外交官」を意図したものとされている。



「ロイヤルホームセンター森ノ宮」 玉造1丁目1-31

・もと森下仁丹本社工場跡には、平成24年に大和ハウス工業のグループ会社で、リフォーム建築資材や園芸用品を扱う「ロイヤルホームセンター」が開業している。

「八洲学園高等学校・大阪中央校」(もと玉造経理専門学校) 玉造1丁目3-15(もと川西町)

・昭和23年に天理市で裁縫学院を始め、同27年に学校法人となった八洲学園が、同年11月に玉造・川西町で「大阪経理専修学校」を開校し、同29年11月、「玉造経理専門学校」と改称した。

・昭和61年に新校舎が完成し、校名も「ヤシマ情報経理専門学校」と改めたが、平成7年には「パソコンワープロカレッジ専門学校」に改称した。

・しかし、この専門学校も平成14年に廃校となり、同地に同じ八洲学園の「西日本柔道整復専門学校」が新設されたが、平成28年3月に廃校。現在は、平成28年に開設された広域制通信制高校である「八洲学園高等学校」の大阪中央校となっている。

「大阪玉造郵便局」 玉造1丁目4-13

「蓮久寺」 玉造1丁目10-15(もと東雲町1丁目)

・真宗東本願寺派の寺で、寺伝によれば、もとは真言宗であったが、明応5年(1496)に蓮如に帰依して真宗に転派し、元和2年(1616)、6世・善天の代に当地へ移転した。

・蓮如筆と伝える紙本墨書の「六字名号3幅」の他、慶長15年(1610)に本願寺教団の大谷派初世門主・教如から裏書下付された「蓮如画像」、「聖徳太子画像」等の史料を有する。

「プラネ・ネオ・スプリングタワー大阪」 玉造1丁目1-25

・平成18年1月竣工の地上35階・地下1階建て超高層(122m)の賃貸タワーマンション。総戸数は269戸で天然温泉を備えている。

「シティハウス上町台玉造」 玉造1丁目6-10

・平成17年1月竣工の15階建て分譲タワーマンションで、総戸数は64戸。

以 上



















